

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03169

研究課題名(和文) 日本古代国家形成の理論および考古学的実践に関する基盤構築

研究課題名(英文) Basic research on the archaeological study of State formation in ancient Japan

研究代表者

下垣 仁志 (Shimogaki, Hitoshi)

京都大学・文学研究科・准教授

研究者番号：70467398

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では日本列島における国家形成を理論面・実践面の双方から多角的に解明することを目指し、これを考古学的資料を用いて実践した。理論面では、国内外の国家形成に関する諸理論を整理しつつ、最も有望と判断した権力資源モデルを採用して、古墳時代における国家形成過程を活写した。実践面では、古墳時代の青銅鏡・大型古墳を中心とする古墳群など複数の考古資料を駆使して、国家形成過程を実証的に復元することを目指した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、古墳への一般的な関心が高まっている。また、邪馬台国や「大和政権」などの古代史への一般の興味も、相変わらず高い。そしてまた、動乱の世界状況の中、文明に関する一般的な関心が急速に高まってきている。

本研究は、資料の数値的データを中心とする具体的な分析と、国家論や文明論を幅広く検討しながら咀嚼することで、より普遍性をもった形の国家論および文明論を構築することを目指した。その成果は基本的に学術書の形で公開し、多くの図書館に架蔵されている。また、一般書や学術書の解説などの形で、研究成果の普及活動にも努めた。

研究成果の概要(英文)： In this research, I tried to clarify the formation process in ancient Japanese Islands from theoretical and practical perspectives. At first, from a theoretical perspective, while examining various theories of state formation extensively, I shed light on the mechanism of state formation in Kofun period by adopting power resource theory. Secondary, from a practical perspective, I have succeeded in restoring the state formation process in Japanese Islands by making full use of multiple archeological materials such as bronze mirrors, funerary goods and large kofun mounds. Furthermore, I tried to connect the theories on early civilizations with state formation theories in order to enhance academic discussion on state formation theory in Japanese archaeology.

研究分野：考古学

キーワード：国家形成 初期文明

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本列島における古代国家形成プロセスの究明は、古代史と考古学の双方にとって極めて重要な主題であり続けてきた。とりわけ、律令国家成立以前の弥生時代～古墳時代の社会的・政治的実態とその推移が、究明の鍵を握る時代として注目を集めてきた。それゆえ、文献史料が寡少な当該期の研究において、考古学的分析が果たす役割は甚大である。また本テーマは、世界各地の古代国家成立論および政体発展論にもつながり、さらには古代文明論とも結びついてくる。加えて、昨年の古市・百舌鳥古墳群の世界遺産登録に代表されるように、古墳(時代)への社会的・国際的関心も急速に高まっている。

しかし近年、少なくとも日本列島の古代国家形成論は、言及の度合いとは裏腹に見るべき成果が乏しく、いささか停滞の感もある。国際的な交流も盛んだが、日本側から自信を持って提示できる近年の成果が乏しい憾みもある。この停滞を打破し、国家形成論に関する本格的な研究を再燃させることが必要であると確信するに至った。

2. 研究の目的

上記の研究状況を打開し、理論と実践を、そして国内と国外の研究枠組みを連結させる日本古代国家形成論の構築を、本研究の目的に据えることにした。日本古代国家形成については膨大な学史的蓄積があり、また発掘資料も膨大な数量に及び、しかも年々増加の一途を辿っている。検討対象とする時代は弥生・古墳時代双方を扱うのが理想であるが、情報量に鑑みて個人の手には余る。また、古代国家形成プロセスが加速するのは古墳時代以降である。そこで本研究では、(弥生時代末期～)古墳時代を対象に据えた。

上記の研究・資料双方の豊かな蓄積を存分に活かすことで、きめ細かい古代国家形成論の構築が可能になる。そして、世界各地の古代国家形成論に対しても、重要なモデル提示を行うことができる。そうした成果を広く国外へと発信することは、学問の国際交流に大きな寄与を果たすことになるだろう。かつまた、古代国家形成に対する社会一般の関心に応じることにもなるはずである。

3. 研究の方法

上記の目的を果たすために、本研究では具体的に以下の3つの作業軸を設定し、これに即して分析を進める方針を定めた。第一の軸は、国家形成理論の網羅的整理及び新たな枠組みの構築(作業A)であり、国内外の国家形成理論及び実践例の悉皆的な検討及び整理に従事する。第二の軸として、近年の首長制社会及び国家形成社会の分析モデルとして注目されつつある権力資源IEMPモデルをI(Ideology, イデオロギー)・E(Economy, 経済)・M(Military, 軍事)・P(Politics, 政治)ごとに整理して、弥生時代末期～古墳時代の考古資料に適用する作業に従事する(作業B)。そして第三の軸として、作業Aと作業Bを、すなわち理論と実践を統合して、日本列島における古代国家形成プロセスを考古資料に即して活写し、今後の諸研究の基点となるに足る重厚な国家形成論の基盤を構築する。このほか、古代国家論と初期(古代)文明を接続する足がかりとして、初期文明論の決定版的な洋書の翻訳作業と解説を実施し、学界及び読書界に紹介・普及をおこなうことにした。

4. 研究成果

本研究期間中に、単著3冊・翻訳書1冊を上梓するなど、十分な研究成果をあげることができた。ただ研究計画項目のうち、計画以上に成果があがったものと、当初の計画が十分に進まなかったものが出てしまった点に問題が残された。以下、上記の作業A～Cに分けて、研究成果を略記する。

作業A(国家形成理論の網羅的整理及び新たな枠組みの構築)について、日本国内の国家形成論の理論的整理は十分に果たせた。専論としては公表していないが、日本考古学と日本古代史が構築してきた国家形成論の到達点と課題を、国内外の研究史整理を通じて明らかにし、構造マルクス主義由来の権力資源モデルの導入が今後への突破口を開きうることを明示した。その成果は、『古墳時代の国家形成』で公表したが、著作の性格上、概略の提示にとどまった感があるので、研究成果を存分に反映した専論の提示が今後の課題として残された。国家形成論に関して、名著『前方後円墳の時代』(近藤義郎著)の解説を担当し、階級社会と国家形成についての知見を整理し、公表した。一方、中国・韓半島の国家形成論の理論的整備については、情報の収集にとどまり、十分な分析まで昇華できなかった。欧米の国家形成論については、情報の旺盛な収集に加えて、初期文明論の決定版的な大著を翻訳し、600頁超の『世界の初期文明』として刊行した。その解説などを通じて、初期文明と国家形成論の接続可能性を提示した。近年、文明論への社会的関心が高まっているが、一般書にとどまらない本格的な初期文明論を国内に紹介することの意

義は極めて大きいものがあると自負している。

作業 B(権力資源モデルを媒介とした諸分析)では、「遺構論的分析」と「遺物論的分析」の2軸から分析成果をあげた。前者について、畿内地域の古墳群動態を数量統計的に分析する前提作業として、畿内地域の有力古墳の悉皆データを構築し、これを公表した(「畿内地域の有力古墳一覧」)。さらに、畿内地域だけでなく列島全域の100m超の古墳を悉皆集成し、時期や正確な規模などを確定し、相対体積を算出した。頗る興味深いデータが得られたが、この成果については、適切な公表媒体を得られず、研究期間中に公表できなかった。2020年度後半および2021年度前半に刊行される論文などで公表してゆく予定である。大型古墳の分析については、「首長墓系譜論の展開」「向日丘陵古墳群と畿内の大型古墳群」などの論考で分析成果を示した。後者については、銅鏡の重量分析の成果を『日本列島出土鏡集成』の論考で公表した。権力資源 IEMP モデルに即した分析としては、I(イデオロギー)に関して「日本古代国家形成と時空観」「人をつなぐ鏡/しぼる鏡」などで、Eに関して「威信財とはなにか」などで、Mに関して「古代国家論と戦争論—考古学からの提言—」などで、Pに関して「古墳研究と集落研究」などで、それぞれ研究成果を提示した。

そして作業 C(国家形成の理論と実践の統合)では、権力資源 IEMP モデルが日本列島の古代国家形成プロセスを解明する上で極めて有効であることを、複数の著書(『古墳時代の国家形成』)及び論考(「古墳と政治秩序」「日本古代国家形成と時空観」等)で提示した。これらの発表媒体は、考古学に閉塞しないよう、なるべく日本史研究者の目に触れる媒体での公表に努めた。のみならず、日本史研究者が利用・吟味できるよう、データの整理法・提示法にもいくぶんの工夫をし、学際的研究の橋渡しとなるような成果公表に努めた。

以上のように、基礎資料の収集及び整理・分析、理論的枠組みに即応した多様な分析の実践、そして両者の統合作業のすべてにおいて、日本列島の古代国家形成論に重要な貢献を果たしたと自己評価できる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 下垣仁志	4. 巻 26
2. 論文標題 向日丘陵古墳群と畿内の大型古墳群	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊考古学・別冊26	6. 最初と最後の頁 130-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下垣仁志	4. 巻 27
2. 論文標題 沖ノ島の鏡	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊考古学・別冊27	6. 最初と最後の頁 33-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下垣仁志	4. 巻 102
2. 論文標題 特集「文明」によせて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史林	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下垣仁志	4. 巻 1
2. 論文標題 日本古代国家形成と時空観	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本的時空観の形成	6. 最初と最後の頁 29-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下垣仁志	4. 巻 654
2. 論文標題 古代国家論と戦争論 考古学からの提言	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 50-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下垣仁志	4. 巻
2. 論文標題 古墳研究と集落研究	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 集落動態からみた弥生時代から古墳時代への社会変化	6. 最初と最後の頁 409-414
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下垣仁志	4. 巻
2. 論文標題 人をつなぐ鏡 / しぼる鏡	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 第29回濱田青陵賞授賞式	6. 最初と最後の頁 8-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 下垣仁志
2. 発表標題 古墳の歴史的意義
3. 学会等名 京大古代学の最前線
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下垣仁志
2. 発表標題 古墳と国家形成
3. 学会等名 公益財団法人向日市埋蔵文化財センター平成29年度市民考古学講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 下垣仁志
2. 発表標題 古代国家論と戦争論 考古学からの提言
3. 学会等名 日本史研究会古代史部会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 下垣仁志
2. 発表標題 人をつなく鏡 / しばる鏡
3. 学会等名 第29回濱田青陵賞記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 下垣仁志
2. 発表標題 古代国家論と戦争論 考古学からの提言
3. 学会等名 日本史研究会全体会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 下垣仁志	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 482
3. 書名 古墳時代銅鏡論考	

1. 著者名 ブルース・トリッガー著(下垣仁志訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 602
3. 書名 世界の初期文明	

1. 著者名 下垣仁志	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 291
3. 書名 古墳時代の国家形成	

1. 著者名 下垣仁志	4. 発行年 2016年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 568
3. 書名 日本列島出土鏡集成	

1. 著者名 和田晴吾・下垣仁志監修	4. 発行年 2017年
2. 出版社 立命館大学文学部	5. 総ページ数 657
3. 書名 畿内の首長墳	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----